

コロナと税金の関係

帝京中学校 1 年

寺 下 凜

コロナパンデミックの影響で、小学四年生の時、私の通っていた小学校が一時的に休校になりました。父の仕事は、テレワークになり、母は、医療関係者なので、ずっと仕事に行っていました。高校に入学したばかりの姉は入学式もなく、クラスメイトに一回も会わずに、ズームでの授業が始まりました。初めての事ばかりで、戸惑い、心配な事が多かった事が今も思い出されます。これはコロナにり患し重症化する人や、亡くなる方が多かったため、感染拡大を抑制するための措置であり、安全を保つための取り組みとして行われました。

税金は国民の義務であり、納めることばかりに意識が向きがちですが、私の父の勤めている会社は飲食業界のため、新型コロナウイルス感染症の影響によって、事業を休業しました。緊急経済対策として二〇二〇年四月に施行された「新型コロナウイルス感染症等の影響に対応するための国税関係法律の臨時特例に関する法律」（新型コロナ税特法）により、税制上の措置が設けられたり、法人や個人事業主を支援するための納税猶予など、設けられました。また、支援策や保険制度を通じて、事業主や従業員が収入の一部を補てんすることができ、経済的な支援を提供する制度なども税金でまかなわれたのです。この制度がなければ、仕事や生活を継続することが難しい状況だったと父が教えてくれました。

世界で、コロナワクチンが開発され、広範囲に接種されることによって新型コロナウイルスの感染拡大を抑制するのに役立ち、少し安心して生活ができるようになりました。このコロナワクチンの開発や配布も、税金によって資金提供されました。国民の希望する人すべてが打つことができ、私も接種しました。感染症の重症化や死亡率が低下し、パンデミックの影響を軽減する助けとなりました。政府は、パンデミックの拡大を抑制するために税金を使用しました。そのおかげで、世界中がパニックになりましたが、四年目の今、新型コロナウイルス感染症は、二類相当から五類に移行されて、季節性インフルエンザと同じ分類になり、マスクをしなくてもいい、元の生活を送ることができています。

私は、国民が納める税金でコロナウイルス対策を行い、命を救うことや、国民の生活を守ることができたのだということを目の当たりにし、税金がどれだけ重要かが良く判りました。今はまだ将来何の仕事をしたいとか、何になりたいかなどは決まっていますが、税金がコロナウイルスという未曾有の事態に、国民を守り、命を助け、また、私の父の会社を助けてくれたように、これからも、困っているどこかで誰かの生活を助けられるよう、日々の勉強をがんばり、好きな仕事に就いて、きちんと税金を納められる人になりたいです。